

卓 話： “これからの商品造りについて” ㈱竹内快速鋸代表取締役 竹内英治様



F 私は秋田から来て三条と言う所はほとんど全然と言った程分らなかったわけですね。どうしてこの三条と言う所に来たんだかと人から言われますが、私がこの道の弟子に入ったのは13才であります。たまたま、そういう話を人に聞かれた場合、まあ、そんな話はいいじゃないかとはぐらかすんですけども、非常に私の所は生活に苦しくて親父がこの大東亜戦争に戦死したもんですから、子供の私は当然ノコギリ屋になるだろうと周囲の期待を一心に受けまして弟子入りしたわけです。所が地方のノコギリ屋さんのものですから、ほとんど手作りなわけですね。それで買うものと言ったらヤスリかハガネ位なものです。あとは自分の力と思うものは全部自分で作るわけですから、たまたま燕の方から出張してきますと出張員の方が三条と言う所はいい所だよ、ノコギリ屋さんが120～130軒とずーっとならんでいるんだと話をしまして、三条と言う所はそういう所なんだなと思っていました。たまたま自分が19才になった時、親方がもう一年礼奉行をすれば道具を全部買ってやるがと言いましたが、私は鋸はいやなので私は今すぐやめます、道具もいらないし、とにかく早く私は家に帰りたいんだと言うことで5年でやめて私は家に帰ったわけなんですけど、当然うでは未熟なもんですから、家に帰って何をすることもなくて、たまたま私の住んでる町と言うのは非常に小さなおもの川の流域にそって栄えた小さな町なんです。この辺に言うとか茂と同じくらいの町です。夏の五月頃になりますと若い青年や若い女の子がだれでもいなくなるので、なぜかと言うと、大正の時代から私の町は全部出かせぎに行ってしまうんです。町に残っているのは役場に入っている同級生かぼうさんになっている同級生しかいません。私も弟子上りをして職人としてあちこち回りました。けれども、どうせやるのであれば三条と言う所へ行ってみたい。たまたま三条へ来るきっかけがありまして、と言っても東京の帰りですが、それでも汽車の中でウトウトいねむりをしていましたら三条、三条と言うんですね。それで私は三条と言う所は大きい町だと言うそうですからおりてみようと思ひ、おりてみたらまわりは全部田んぼだったんですね。なんだこんな所におりてもしょうがない。又パッと汽車に乗りまして家へ帰ろうと思って乗ったら又、又、こんどは東三条と言う訳ですね。一つの町に駅が二つあると言う事は、大きな町なんだと思ひおりてみよう。それで三条へ下りたわけなんです。私は三条の町に身寄りも知り合いもありません。そういう所で私は40年間ずーっと三条にごやっかいになっております。今から20年前さかのぼりますと三条ノコギリ業界は非常にいそがしかったですね。関連の業者数も入れますと320軒～330軒あったわけです。今の現状はノコギリだけで飯を食べている人は20軒たらずですね。こういう風に激減する業会が他にあるでしょうから、私はそれをみてなぜこういう風にな

るんだろう、これは丸のこの普及もあるでしょう。使い捨ての替刃もあるでしょう。しかし私はそれが一番の原因じゃないと思います。なぜそういうふうになったか、これはノコギリには定価というものがありませんね。こちらの家は¥1000だ、こちらの家は¥5000、こちらの家は¥3000、みんなばらばらの訳です。しかし、¥100~¥10000のノコギリでも、まあ¥10000のノコギリを買ったんだから誰が使ってもまっすぐ切れる保証はありません。そういう品物が販売されております。ほとんど手作りの修行をして三条に来ました中で全部機械なわけですから、幼稚園の子供が三年生や五年生の勉強を習うのと同じで、なんでも出来ないですね。しかしながら私の出来るのは、その当時、ノコギリの目立だけだったんです。これは絶対人には負けなかったのです。あんたの刃は非常によく切れると三条の間屋さんが言うのです。三条はこれでは駄目なんだよ。三条は切れなくても良いからきっぱをよくしなれば駄目だ。これが今回の起源になった一つ大きな要因ではないかと思います。切れなくとも良いからきっぱだけ良ければいいと言う考え方は末端へいって感謝され使用される道具になるでしょうかね。私は今回目立屋さんでしてきた修業を考えますと、これからの商品造りと言うのはこういうことも考え、使う人の事を第一に考えなければならない。今の商品と言うのは、使う人の事はあまり考えないで、自分達が都合の良いように考え、そしてこれが一番量産で売れるから、この値段だと、そういうふうなメーカーのおごりが今の状況をもたらししていると私は思うのです。私はこれがもっともっと親しまれる道具造りに方法がないのかと、私は今から20年~25年前にホームセンターに行って実演してノコギリを売ったんですが、その当時はゴンドラにノコギリの両刃がずーとならんでいたんです。だが今はどうでしょう。今はちょっぴりならんでいるだけです。これはお客さんにきらわれているんですね。そんなあまりよくない品物を買ってもしようがないから買わないわけですから。ほんとうに性能がよければ買っていかれる激減する事はなかったのです。私は商品はどういうものを作ったら良いか、私はどうかして残って行きたいと思っていますので、ここでノコギリ以外で道具を作って行かなければならないと思い、いろんな物を作ろうと、だけどノコギリだけで50年もやって来た人間が他の商品を作れと言うゆとりがないわけですね。その為にノコギリに関連したものを考えようと線をまっすぐに引いてノコギリで切ってもだいたい曲がってしまう。私がそれを初心者の人がノコギリでまっすぐに切れたら良いなあと思い、それを作ろうと思いました。それで試作品を作り、私の意とする所の90%の製品が出来上がりました。まっすぐに線を引いた上を線を見なくてもまっすぐに切れて行く道具を発明したわけです。これはまだ試作品で90%しか完全に出来ていません。これが完全に出来たら発明将軍に出演したいと思っています。この製品のモデルを作るにあたり、相当の金がかかりました。私の意とする所まで作るに3ヶ月程かかっています。そうして改良してこのような製品になって来ましたが、まだ改良する点がいっぱいあるのです。私は去年、仕事の関係で台湾に行きました。私のノコギリも台湾に行っているものですから、あまり深く考える事なくポンと行ったのです。台湾に来てびっくりした事はノコギリは両刃ノコは使われないのです。何故かと言うと台湾の住宅はコンクリ